

宗教学

授業科目名	授業題目	単位数	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
宗教学概論	宗教と現代社会	2	木村 敏明	3	金曜3限
宗教学概論	日本宗教の近現代	2	問芝 志保	4	水曜2限
宗教学基礎講読	宗教民俗学の視点入門 “見えないモノを捉える”	2	阿部 友紀	3	金曜3限
宗教学基礎講読	「無神論」を考える	2	庄司 一平	4	火曜2限
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三	3	金曜5限
宗教学基礎演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三	4	金曜5限
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀	3	月曜4限、 月曜5限
宗教学基礎実習	宗教学調査法	2	木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀	4	月曜4限、 月曜5限
宗教学各論	宗教社会学	2	問芝 志保	5	火曜3限
宗教学各論	災害と宗教	2	木村 敏明	6	金曜3限
死生学各論	死生学の諸問題口	2	高橋 原	5	水曜5限
死生学各論	死とともに生きることを学 ぶ	2	竹之内 裕文	5	集中講義
死生学各論	スピリチュアリティと宗教 心理	2	高橋 原	6	水曜3限
実践宗教学各論	スピリチュアルケア	2	谷山 洋三、井川 裕 覚	5	火曜2限
実践宗教学各論	死生学文献講読	2	高橋 原	5	水曜3限
実践宗教学各論	宗教的ケア	2	谷山 洋三、井川 裕 覚	6	火曜2限

宗教学

実践宗教学各論	実践宗教学試論~宗教者によるケア実践	2	高橋 原	6	水曜5限
宗教学講読	アメリカ大学における怪談	2	ANDREWS DALE	5	火曜1限
宗教学講読		2	ANDREWS DALE	6	火曜1限
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三	5	金曜5限
宗教学演習	宗教研究の技法	2	木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三	6	金曜5限
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀	5	月曜4限、月曜5限
宗教学実習	宗教学調査法	2	木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀	6	月曜4限、月曜5限

科目名：宗教学概論

曜日・講時：金曜3限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教と現代社会

2・授業の目的と概要：この授業では、現代社会における宗教の諸相を具体的事例をとりあげつつ宗教学的視点から論じ、その意義や課題を明らかにしていく。

3. 学習の到達目標：現代社会において宗教が持つ意義や課題について理解できる。
宗教学的視点から現代社会の諸問題について考えることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. . 宗教を定義／脱定義する 聖なるもの
3. 宗教を定義／脱定義する 儀礼
4. 宗教を定義／脱定義する 宗教集団
5. 小括
6. 現代宗教の基礎理論 世俗化
7. 現代宗教の基礎理論 公共宗教
8. 現代宗教の基礎理論 民間信仰
9. 小括
10. 宗教と政治
11. 宗教と経済
12. 宗教と教育
13. 宗教と移民
14. 宗教と科学
15. まとめ

5. 成績評価方法：毎回の授業後に提出する小レポート[40%]、期末のレポート[60%]

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書は授業中に指示するが全体的なものとしては『よくわかる宗教学』（櫻井義秀・平藤喜久子編、ミネルヴァ書房、2015年）をあげておく。

7. 授業時間外学習：日ごろから新聞等で宗教関連の情報を収集し、小レポートに反映させる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講者数によっては、他学部履修を制限することがある。

科目名：宗教学概論

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：問芝 志保

コード：LB43201, 科目ナンバリング：LHM-RES201J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：日本宗教の近現代
2. 授業の目的と概要：近代・現代日本社会における宗教現象の変容過程を論じるとともに、日本の宗教学・宗教社会学の歴史と学説・理論の展開を紹介する。
3. 学習の到達目標：宗教学・宗教社会学の基礎的知識および基本的な概念を学ぶ。日本人・日本社会にとって宗教とは何かを考察する視点を養う。
4. 授業の内容・方法と進度予定：
 - ★教室の座席数を履修上限人数とし、超過した場合には抽選を行う。
 - 教員が講義する。ミニットペーパーに記された質問や疑問については、可能な限り次回の授業開始時に回答する。
 - (1) イントロダクション
 - (2) 「日本の宗教」をいかにとらえるか
 - (3) 幕末維新期の民衆宗教
 - (4) 明治期の日本型政教関係
 - (5) 日本における宗教学の創始
 - (6) 近代日本と仏教・キリスト教・新宗教
 - (7) 戦争と宗教
 - (8) 戦後日本の宗教政策
 - (9) 都市化と宗教浮動人口
 - (10) 高度経済成長期の新宗教
 - (11) オウム事件と宗教・宗教学
 - (12) スピリチュアルブーム・パワースポットブーム
 - (13) 震災と宗教・宗教学
 - (14) 人口減少・高齢多死・グローバル時代の宗教
 - (15) まとめ
5. 成績評価方法：毎回提出のミニットペーパーの内容 ※変更の可能性あり
6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。
7. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、わからない事項があった場合は事典等で調べる。授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
9. その他：

科目名：宗教学基礎講読

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：阿部 友紀

コード：LB35304, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教民俗学の視点入門 “見えないモノを捉える”

2・授業の目的と概要：本授業は日本の宗教現象に注目した、宗教民俗学の視点について学ぶことを目的とする。この分野の先行研究に関しては数多くの蓄積があるが、ライフスタイルや現代日本の社会変化を踏まえたうえで、宗教民俗学の現状と課題を再考する必要がある。本年度の授業では、宗教民俗学が神や精霊、祖先などの“目に見えない存在”についてどのように考えてきたか、関連する論文を読解し議論する。

3. 学習の到達目標：日本の宗教民俗学と宗教文化を研究する上で必要な概念を理解し議論できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

次のようにテーマを設定するので、指定した論文を予習しておく。各担当者は要点をまとめたレジュメを作成し、また疑問点・補足事項などもまとめる。そのレジュメを使用して受講者でディスカッションを行う。

1. 授業について
2. 宗教民俗学の思考①
3. 宗教民俗学の思考②
4. 宗教民俗学の思考③
5. 宗教民俗学の思考④
6. 土着化①
7. 土着化 (Vernacular) ②
8. 精霊とアニミズム①
9. 精霊とアニミズム②
10. 怪異①
11. 怪異②
12. 宗教とスピリチュアリティ①
13. 宗教とスピリチュアリティ②
14. まとめ
15. 予備日

5. 成績評価方法：期末レポート（60%）.ディスカッションへの参加度（20%）.出席率（20%）.
なお規定の出席率を満たさない学生の成績評価はしない。

6. 教科書および参考書：各論文を準備するので、各自予習しておく。参考文献はその都度に提示する。

7. 授業時間外学習：必ず論文の予習をしておくこと。議論への積極的な参加を期待する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学基礎講読

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：庄司 一平

コード：LB42204, 科目ナンバリング：LHM-RES202J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：「無神論」を考える
2. 授業の目的と概要：テキスト輪読をつうじて、「無神論」の諸相について考え議論する。
3. 学習の到達目標：宗教研究の基本的な概念・理論・方法について理解できる。
宗教／脱宗教の社会文化的背景について説明できる。
4. 授業の内容・方法と進度予定：
各セクションの担当者は、授業時に用語解説・内容の説明・質問への応答等を行う。
 1. 授業の概要・進め方について
 2. “Introduction” (1)
 3. “Introduction” (2)
 4. “Leaving Faith: Arriving at Atheist Identity from Religious Backgrounds”
 5. “Cultural Contexts in Coming Out as Atheist”
 6. 〈小括〉
 7. “Two Closets?: Identifying as Both LGBTQ and Atheist”
 8. “Ain’t No Mountain High Enough: Navigating Romantic Relationships as an Atheist”
 9. “The Search for Connection: Coming Out to Friends and Questing for Community”
 10. “Atheism at Work: Tales of Coming Out to Coworkers and Colleagues”
 11. 〈小括〉
 12. “Atheism and Aging: The Challenges of Entering Older Adulthood as a Nonbeliever”
 13. “Concluding Thoughts: The Open Door”
 14. 〈まとめ〉 (1)
 15. 〈まとめ〉 (2)
5. 成績評価方法：「授業への参加度」(50%) および「期末レポート」(50%) により総合的に評価する。
6. 教科書および参考書：Melanie E. Brewster, ed., *Atheists in America* (Columbia University Press, 2014)
7. 授業時間外学習：担当者は担当部分の日本語訳、用語や内容のリサーチを事前に行っておくこと。
また事後には必要に応じて補足説明を行うこと。
他の参加者は用語や日本語訳・内容等について質問を用意しておくこと。
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practicalbusiness
9. その他：

科目名：宗教学基礎演習

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：3 **単位数：**2

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三

コード：LB35501, **科目ナンバリング：**LHM-RES203J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：宗教研究の技法

2・授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

3. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2. 学部3年発表 1グループ
3. 学部3年発表 2グループ
4. 学部3年発表 3グループ
5. 学部3年発表 4グループ
6. 学部3年発表 5グループ
7. 学部3年発表 6グループ
8. 予備日：学部3年欠席者のため
9. 学部4年発表 グループ1
10. 学部4年発表 グループ2
11. 学部4年発表 グループ3
12. 学部4年発表 グループ4
13. 学部4年発表 グループ5
14. 学部4年発表 グループ6
15. 予備日：学部4年欠席者のため

5. 成績評価方法：発表および討論への参加（授業後のコメントを含む）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学基礎演習

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三

コード：LB45502, 科目ナンバリング：LHM-RES203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教研究の技法

2・授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

3. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション：授業の狙いおよび進め方
2. 学部3年発表 グループ1
3. 学部3年発表 グループ2
4. 学部3年発表 グループ3
5. 学部3年発表 グループ4
6. 学部3年発表 グループ5
7. 予備日：学部3年欠席者のため
8. 学部4年発表 グループ1
9. 学部4年発表 グループ2
10. 学部4年発表 グループ3
11. 学部4年発表 グループ4
12. 学部4年発表 グループ5
13. 予備日：学部4年欠席者のため
14. 学部2年発表 グループ1
15. 学部2年発表 グループ2

5. 成績評価方法：発表および討論への参加。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学基礎実習

曜日・講時：月曜4限、月曜5限

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀

コード：LB31403, 科目ナンバリング：LHM-RES204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学調査法

2・授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：宗教学におけるデータとは
3. 第二回：参与観察法
4. 第三回：インタビュー調査法
5. 第四回：質問紙調査法
6. 第五回：文献調査法・情報検索法
7. 第六回：映像記録法① 写真撮影の基本
8. 第七回：映像記録法② ビデオ撮影の基本
9. 第八回：映像記録法③ 写真撮影実習
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

5. 成績評価方法：授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学基礎実習

曜日・講時：月曜4限、月曜5限

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀

コード：LB41405, 科目ナンバリング：LHM-RES204J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学調査法

2・授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

5. 成績評価方法：授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学各論

曜日・講時：火曜 3 限

semester：5 単位数：2

担当教員：間芝 志保

コード：LB52302, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教社会学
2. 授業の目的と概要：Material Religion をテーマとし、関連する英語論文を講読する。
3. 学習の到達目標：「宗教と社会」という問題をとらえるための視座を養う。
4. 授業の内容・方法と進度予定：
 - ・各回 1 名の受講者が報告を担当する。報告者は課題となる英語論文を読み、日本語でレジュメを作成し、報告を行う。
 - ・誰がいつ何を報告するかは初回授業の際に決定する。報告者になることを希望する者は初回授業に出席すること（どうしても出席できない場合は応相談）。
 - ・報告者にならなかった者の成績評価は期末レポートの提出によって行う。
 - (1) イントロダクション
 - (2)～(3) 教員による概説
 - (4)～(14) Material Religion 論文の講読
 - (15) まとめ
5. 成績評価方法：報告もしくは期末レポート
6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考書は授業中に指示する。
7. 授業時間外学習：課題論文を熟読し、わからない事項は事典等で調べておく。授業内で提示された参考書に目を通し、理解を深める。
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
9. その他：

科目名：宗教学各論

曜日・講時：金曜 3 限

Semester：6 単位数：2

担当教員：木村 敏明

コード：LB65303, 科目ナンバリング：LHM-RES301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：災害と宗教

2・授業の目的と概要：突然にやってきて人々の日常生活の基盤を突き崩してしまう自然災害。被災者たちや周囲の人々が災害を受け止め、生活を立て直す中で、宗教はいかなる役割を果たしてきたのか。この授業では自然災害をめぐる宗教的観念、宗教的儀礼、復興と宗教といったトピックについて、教員による講義と論文をもとにした議論によって問題の理解を深める

3. 学習の到達目標：宗教学的なものの見方を身につけることができる。
現代社会における宗教の意義や課題について具体的な事例を通して理解できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨN ①何故災害と宗教か
2. インTRODクシヨN ②発表準備
3. 災害観と宗教（講義）
4. 災害観と宗教（論文講読と議論）
5. 災害観と宗教（論文講読と議論）
6. 災害と儀礼（講義）
7. 災害と儀礼（論文講読と議論）
8. 災害と儀礼（論文講読と議論）
9. 宗教と復興（講義）
10. 宗教と復興（論文講読と議論）
11. 宗教と復興（論文講読と議論）
12. 宗教と死者（講義）
13. 宗教と死者（論文講読と議論）
14. 宗教と死者（論文講読と議論）
15. まとめ

5. 成績評価方法：授業における発表と、授業後提出のコメントで評価をする。

6. 教科書および参考書：教科書は用いない。参考書は授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：使用文献の精読および発表の準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：死生学各論

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB53501, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死生学の諸問題

2. 授業の目的と概要：死生学をめぐる諸問題について学ぶ。

3. 学習の到達目標：死生学的観点から、文化の中の死について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

指定テキスト(参考書)のトピックにそって、関連する話題を取り上げていく。

- (1) 死生学とは何か
- (2) 死生観と宗教
- (3) 日本人の死生観
- (4) 喪と追悼
- (5) 死生観一國と地域の視点から
- (6) マスメディアで死生について考える
- (7) 「生と死」を生きる本人からの発信
- (8) 老いと死
- (9) 病い経験と「生」
- (10) 遺族の喪失体験とグリーフワーク
- (11) 自己決定権
- (12) ターミナルケア
- (13) 自殺予防
- (14) 尊厳死
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：毎回のミニットペーパーによる。

6. 教科書および参考書：(参考書)

石丸昌彦『死生学入門』放送大学教育振興会 2014

石丸昌彦『死生学のフィールド』放送大学教育振興会 2018

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：死生学各論

曜日・講時：水曜3限

Semester：6 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB63307, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：スピリチュアリティと宗教心理

2. 授業の目的と概要：W・ジェイムズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な宗教心理学者たちの議論を踏まえて、諸事例をとりあげながら、スピリチュアリティと宗教について考える。

3. 学習の到達目標：心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、危機におけるスピリチュアリティの働きを理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：古典的回心理解(1)

第3回：古典的回心理解(2)

第4回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(1)

第5回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(2)

第6回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1) 健全な心と病める魂

第7回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2) 潜在意識仮説とプラグマティズム

第8回：心理療法と宗教(1)

第9回：心理療法と宗教(2)

第10回：心理療法と宗教(3)

第11回：心理療法と宗教(4)

第12回：深層心理学と宗教(1)

第13回：深層心理学と宗教(2)

第14回：深層心理学と宗教(3)

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：毎回提出のミニットペーパーによる。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：死生学各論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2

担当教員：講師（非）

コード：LB98812, 科目ナンバリング：LHM-RES307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ

2・授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという
現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

3. 学習の到達目標：1 対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。

2 テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章(序章~終章)をめぐる9つの対話、2) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1) ガイダンス: 講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2) ワールドカフェ ある死別の経験から(序章)
- 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞
- 4) テキストをめぐる対話1 重度障害者自立ホームから(第1章)
- 5) テキストをめぐる対話2 在宅緩和ケアの現場から(第2章)
- 6) テキストをめぐる対話3 死者と共にある農村との出会い(第3章)
- 7) テキストをめぐる対話4 いのちに気づかって生き、死ぬ(第4章)
- 8) テキストをめぐる対話5 共に生きること、本当に生きること(第5章)
- 9) 10) 11) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク
- 12) テキストをめぐる対話6 森と湖の国の「福祉」(第6章)
- 13) テキストをめぐる対話7 ホスピス運動の源流を辿る(第7章)
- 14) テキストをめぐる対話8 死とともに生きることを学ぶ~哲学と対話(終章)
- 15) 授業全体のふり返り

5. 成績評価方法：ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話(全9回)の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回=72点のポイントを獲得します。2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。

6. 教科書および参考書：講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』(ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223)をテキストとして使用します。

7. 授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれませんが、しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話=本番という考え方を共有してください。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次のURLを参照ください。

<https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>

<http://hdl.handle.net/10297/00027723>

科目名：実践宗教学各論

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：谷山 洋三、井川 裕覚

コード：LB52202, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：スピリチュアルケア

2・授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。

3. 学習の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：スピリチュアルケア実践論1：「臨床宗教師」の誕生

第3回：スピリチュアルケア実践論2：生活の中で

第4回：スピリチュアルケア実践論3：ペインとケア

第5回：スピリチュアルケア実践論4：宗教的資源の活用

第6回：スピリチュアルケア実践論5：臨床宗教師の可能性

第7回：ワークショップ1

第8回：スピリチュアルケア理論1（村田、中井）

第9回：スピリチュアルケア理論2（窪寺）

第10回：スピリチュアルケア理論3（大下、河）

第11回：スピリチュアルケア理論4（小西）

第12回：スピリチュアルケア理論5（伊藤）

第13回：スピリチュアルケア理論6（葛西）

第14回：ワークショップ2

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

6. 教科書および参考書：教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
参考書：瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
該当する

9. その他：

科目名：実践宗教学各論

曜日・講時：水曜 3 限

semester：5 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB53301, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死生学文献講読
2. 授業の目的と概要：死生観に関する英語文献を読み、生と死の諸問題についての基礎的な知識を得る。
3. 学習の到達目標：生と死の諸問題についての知識を自分の問題関心につなげる。
4. 授業の内容・方法と進度予定：
Death and Bereavement Across Cultures: 2nd Edition (Colin Murray Parkes (Editor), Pittu Laungani (Series Editor), Bill Young (Series Editor), Routledge, 2015.)をチャプターごとに読み進める。テキストの購入は必要ない。
学生は以下に示す目次から、毎回一章を選んで要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。
Part 1. A Conceptual Framework : Historical and Cultural Themes.
Murray Parkes, Laungani, Young, Introduction.
Murray Parkes, Laungani, Young, Culture and Religion.
Part 2. Major World Systems of Belief and Ritual.
Rosenblatt, Grief in Small-Scale Societies.
Pittu and Ann Laungani, Death in a Hindu Family.
Gouin, The Buddhist Way of Death.
Levine, Jewish Views and Customs on Death.
Jupp, Christianity: Beliefs and Practices about Death and Bereavement.
Alladin, The Islamic Way of Death and Dying: Homeward Bound.
Walter, Secularisation.
Part 3. Practical Implications and Conclusions.
Papadatou, Children and Families.
Murray Parkes, Helping the Dying and the Bereaved.
Laungani, Murray Parkes, Young, Conclusions I. Implications for Practice and Policy.
Murray Parkes, Conclusions II. Attachments and Losses in Cross-cultural Perspective
5. 成績評価方法：出席回数と発表内容により総合に評価する。
6. 教科書および参考書：Death and Bereavement Across Cultures: 2nd Edition (Colin Murray Parkes (Editor), Pittu Laungani (Series Editor), Bill Young (Series Editor), Routledge, 2015.)
7. 授業時間外学習：テキストを読み、発表資料を準備する。
8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
9. その他：

科目名：実践宗教学各論

曜日・講時：火曜 2 限

semester：6 単位数：2

担当教員：谷山 洋三、井川 裕覚

コード：LB62206, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教的ケア

2・授業の目的と概要：「宗教的ケア」をテーマに、様々な宗教者、臨床宗教師、スピリチュアルケア師、医療従事者などの臨床の在り方について議論する。スピリチュアルケアの視点から、主として公共空間における宗教性をケアに用いることの意義や、効果についても検討したい。毎回テーマに関する雑誌論文等を指定し、演習形式で授業を進める。

3. 学習の到達目標：公共空間における宗教的ケアについて、その宗教的意義と、ケアとしての意義の両方の側面から検討し、理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：山本佳世子ら「宗教系病院における死亡した非信者患者及びその家族への宗教者によるケア」

第3回：山田和夫「精神科医療におけるスピリチュアルケアについて」

第4回：中島修平「がん在宅緩和医療における安らかな看取りのためのスピリチュアルケア」

第5回：野田康弘「チャプレン研修から学んだ緩和医療におけるキリスト教のあり方」

第6回：小括（スピリチュアルケアの宗教性）

第7回：村田久行「終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア」

第8回：小西達也「終末期スピリチュアルケアの三つの〈あいだ〉」

第9回：田中英明ら「東洋と西洋の医療従事者のスピリチュアリティ等に対する認識の比較」

第10回：小括（医療と宗教的ケア・スピリチュアルケア）

第11回：細谷幸子「イランのスピリチュアルケアの現状」

第12回：中川吉晴「G. R. A. C. E. におけるスピリチュアルケア」

第13回：斉藤仙邦「梵天勧請についての一考察」

第14回：伊藤高章「『スピリチュアリティの定義』をめぐって」

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：発表[50%]、授業への取り組み[25%]、出席[25%]

6. 教科書および参考書：参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
該当する

9. その他：

科目名：実践宗教学各論

曜日・講時：水曜 5 限

Semester：6 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LB63503, 科目ナンバリング：LHM-RES308J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：実践宗教学試論~宗教者によるケア実践

2. 授業の目的と概要：とりわけ「死」の周辺において宗教者が果たしてきたケアの役割について彼らの現場経験から学ぶ。

3. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、現代社会における死とケア、宗教文化を取り巻く諸問題を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者(臨床宗教師)を招く回があります。各回の内容は仮のもので、順序、担当講師の詳細は未定です。決定し次第、掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師とは何か？(1)
2. 臨床宗教師とは何か？(2)
3. カフェ・デ・モンク(宗教者による被災地支援の実情)
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

5. 成績評価方法：毎回のミニットペーパーの内容と出席状況により判断する。

6. 教科書および参考書：特に指定しない

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学講読

曜日・講時：火曜1限

semester：5 単位数：2

担当教員：ANDREWS DALE

コード：LB52101, 科目ナンバリング：LHM-RES303E, 使用言語：英語

1. 授業題目：アメリカ大学における怪談

2. 授業の目的と概要：本授業では、アメリカ民俗学者である Elizabeth Tucker が 2007 年に著した "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" という民俗誌を読み、"ghostlore", つまり幽霊の民俗や伝承についてディスカッションをする。本授業は英語で行う。(キーワード：幽霊, 大学, アメリカ, 伝承, フォークロア, 死生観, 通過儀礼, 異文化)

3. 学習の到達目標：受講生は、(1) 英語で書かれたテキストの簡単な和訳することができる。(2) 英語で意見を述べることができる。(3) アメリカ大学に関わる怪談の特徴を説明することができる。(4) 自文化とアメリカの怪談の相違点と共通点を理解することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

"Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" の各章を読みすすめます。予定としては、前期：第一章 Campus Ghostlore, 第二章 Sensory Evidence, 第三章 Ghostly Evidence, 第四章 Troubling Encounters; 後期：第五章 Desperate Lovers, 第六章 Wailing Women, 第七章 Spectral Indians, 第八章 Legend Quests

5. 成績評価方法：授業中のディスカッションおよび課題：50%; オンライン小テスト (Google classroom)：50%.

6. 教科書および参考書：Textbook: "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" (University Press of Mississippi, 2007); ISBN-10: 1578069955. (電子版可) ASIN: B001RN01AY

7. 授業時間外学習：週 1~3 時間の自主的学修をすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

教科書 "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" 必須。ペーパーバック版又は電子版可。

科目名：宗教学講読

曜日・講時：火曜 1 限

セメスター：6 単位数：2

担当教員：ANDREWS DALE

コード：LB62101, 科目ナンバリング：LHM-RES303E, 使用言語：英語

1. 授業題目：アメリカ大学における怪談

2・授業の目的と概要：本授業では、アメリカ民俗学者である Elizabeth Tucker が 2007 年に著した "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" という民俗誌を読み、"ghostlore", つまり幽霊の民俗や伝承についてディスカッションをする。本授業は英語で行う。(キーワード：幽霊, 大学, アメリカ, 伝承, フォークロア, 死生観, 通過儀礼, 異文化) (前期の LB462 の続き)

3. 学習の到達目標：受講生は、(1) 英語で書かれたテキストの簡単な和訳することができる。(2) 英語で意見を述べることができる。(3) アメリカ大学に関わる怪談の特徴を説明することができる。(4) 自文化とアメリカの怪談の相違点と共通点を理解することができる。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

"Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" の各章を読みすすめます。予定としては、前期：第一章 Campus Ghostlore, 第二章 Sensory Evidence, 第三章 Ghostly Evidence, 第四章 Troubling Encounters; 後期：第五章 Desperate Lovers, 第六章 Wailing Women, 第七章 Spectral Indians, 第八章 Legend Quests

5. 成績評価方法：授業中のディスカッションおよび課題：50%; オンライン小テスト (Google classroom)：50%.

6. 教科書および参考書：Textbook: "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" (University Press of Mississippi, 2007); ISBN-10: 1578069955. (電子版可) ASIN: B001RN01AY

7. 授業時間外学習：週 1~3 時間の自主的学修をすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

教科書 "Haunted Halls: Ghostlore of American College Campuses" 必須。ペーパーバック版又は電子版可。

科目名：宗教学演習

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三

コード：LB55501, **科目ナンバリング：**LHM-RES304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：宗教研究の技法

2・授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

3. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

2. 学部3年発表 1グループ
3. 学部3年発表 2グループ
4. 学部3年発表 3グループ
5. 学部3年発表 4グループ
6. 学部3年発表 5グループ
7. 学部3年発表 6グループ
8. 予備日：学部3年欠席者のため
9. 学部4年発表 グループ1
10. 学部4年発表 グループ2
11. 学部4年発表 グループ3
12. 学部4年発表 グループ4
13. 学部4年発表 グループ5
14. 学部4年発表 グループ6
15. 予備日：学部4年欠席者のため

5. 成績評価方法：発表および討論への参加（授業後のコメントを含む）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学演習

曜日・講時：金曜 5 限

セメスター：6 **単位数：**2

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、高橋 原、谷山 洋三

コード：LB65501, **科目ナンバリング：**LHM-RES304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：宗教研究の技法

2・授業の目的と概要：毎回複数の受講生が研究発表を行い、その内容をめぐって参加者全員が検討し議論をすることで、自らの問題関心を聴衆に理解されるように発表する力、他者の研究発表を正確かつ批判的に聞く力、異なった見解を持った者で議論をする力を涵養することを目指す。

3. 学習の到達目標：宗教研究のために必要な知識と技法を習得することができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODakション：授業の狙いおよび進め方
2. 学部3年発表 グループ1
3. 学部3年発表 グループ2
4. 学部3年発表 グループ3
5. 学部3年発表 グループ4
6. 学部3年発表 グループ5
7. 予備日：学部3年欠席者のため
8. 学部4年発表 グループ1
9. 学部4年発表 グループ2
10. 学部4年発表 グループ3
11. 学部4年発表 グループ4
12. 学部4年発表 グループ5
13. 予備日：学部4年欠席者のため
14. 学部2年発表 グループ1
15. 学部2年発表 グループ2

5. 成績評価方法：発表および討論への参加（授業後のコメントを含む）。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：発表準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学実習

曜日・講時：月曜4限、月曜5限

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀

コード：LB51406, 科目ナンバリング：LHM-RES306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学調査法

2・授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必須である。本授業では、宗教調査の方法とスキルについて講義を通して学習し、夏季におこなう共同調査に向けて調査計画の立案を行う。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第一回：民間信仰の基礎 社会組織と講
3. 第二回：民間信仰の基礎 年中行事①
4. 第三回：民間信仰の基礎 年中行事②
5. 第四回：民間信仰の基礎 人生儀礼①
6. 第五回：民間信仰の基礎 人生儀礼②
7. 第六回：民間信仰の基礎 神社と寺院
8. 第七回：民間信仰の基礎 民話と伝説
9. 第八回：民間信仰の基礎 民間信仰の現在
10. 第九回：調査と研究の倫理
11. 第十回：現地調査計画の立案
12. 第十一回：現地調査準備① 地域について知る
13. 第十二回：現地調査準備② 先行研究をまとめる
14. 第十三回：現地調査準備③ 質問項目を考える
15. 第十四回：まとめ、調査の最終チェック

5. 成績評価方法：授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。夏季に実施される現地調査への参加。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：宗教学実習

曜日・講時：月曜4限、月曜5限

Semester：6 単位数：2

担当教員：木村 敏明、問芝 志保、谷山 洋三、阿部 友紀

コード：LB61403, 科目ナンバリング：LHM-RES306J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教学調査法

2・授業の目的と概要：他者の信仰を理解するためには、文字化された資料を扱うのみでは限界があり、フィールドワークに基づき、活きた信仰を解き明かすことが必要である。本授業では、夏季に行われた宗教調査をもとにしてそのまとめ作業をおこなう。

3. 学習の到達目標：(1) 宗教調査の立案、準備、実施、資料整理、発表の技法を身につける。
(2) 調査を通じて「活きた宗教」に対する理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション 後期授業の概要
2. 第一回、前期調査のまとめ①フェイスシート整理作業
3. 第二回、前期調査のまとめ②聞き取りデータ整理作業 社会組織と生業
4. 第三回、前期調査のまとめ③聞き取りデータ整理作業 神社・寺院・その他の宗教施設
5. 第四回、前期調査のまとめ④聞き取りデータ整理作業 民間信仰
6. 第五回、前期調査成果発表準備①アウトライン作成
7. 第六回、前期調査成果発表準備②データの集約
8. 第七回、前期調査成果発表準備③スライド作成
9. 第八回、前期調査成果発表準備④発表予行演習
10. 第九回、前期調査成果発表
11. 第十回、現地調査報告書作成①社会組織と生業
12. 第十一回、現地調査報告書作成②神社・寺院・その他の宗教施設
13. 第十二回、現地調査報告書作成③民間信仰
14. 第十三回、現地調査報告書作成④校正など
15. 第十四回、総括と反省

5. 成績評価方法：授業/ 調査への取り組み、発表を総合的に評価する

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。参考書については、授業中に紹介する。

7. 授業時間外学習：授業中に指示された課題、準備。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：